



2021年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年11月5日

上場取引所 東

上場会社名 アルフレッサホールディングス株式会社

コード番号 2784 URL https://www.alfresa.com/

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 荒川 隆治

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 専務執行役員 (氏名) 岸田 誠一 (TEL) 03-5219-5102

総務・財務・コーポレートコミュニケーション・コンプライアンス担当

四半期報告書提出予定日 2020年11月12日

配当支払開始予定日 2020年12月4日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第2四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	1,295,126	△5.3	7,858	△65.7	13,559	△50.1	11,097	△38.8
2020年3月期第2四半期	1,367,155	5.3	22,909	17.8	27,169	11.5	18,129	8.0

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 19,348百万円(29.9%) 2020年3月期第2四半期 14,892百万円(△55.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	52.43	—
2020年3月期第2四半期	85.65	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第2四半期	1,336,343	487,690	36.5
2020年3月期	1,351,619	474,898	35.0

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 487,464百万円 2020年3月期 473,702百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	25.00	—	25.00	50.00
2021年3月期	—	26.00	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	27.00	53.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,631,000	△2.5	20,900	△56.1	31,300	△45.3	19,600	△51.3	92.60

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2021年3月期2Q	235,017,600株	2020年3月期	235,017,600株
2021年3月期2Q	23,344,445株	2020年3月期	23,344,229株
2021年3月期2Q	211,673,231株	2020年3月期2Q	211,674,126株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、今後の様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) キャッシュ・フローの状況	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	7
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(四半期連結貸借対照表関係)	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(追加情報)	11
(セグメント情報)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループでは、2019年5月に策定した「19-21中期経営計画 さらなる成長への挑戦 ～健康とともに、地域とともに～」(以下「19-21中計」という。)に掲げたグループ経営方針「グループ連携体制の構築」「事業モデルの変革」「地域の人々の健康への貢献」「さらなる生産性の向上」「人づくり」に引き続き取り組んでおります。

当第2四半期連結累計期間においては、新型コロナウイルス感染症の流行が続くなか、当社グループでは、生命関連商品を取り扱う社会インフラとしての使命を果たすべく、感染拡大防止の対策を行うとともに、お取引先様および当社グループ従業員の安全を確保しながら医薬品等の安定供給に努めてまいりました。

当社は、2020年6月、医療関連事業(調剤薬局事業)における基盤強化およびガバナンス強化を目的として、連結子会社のアポロメディカルホールディングス株式会社(本社：東京都豊島区、以下「アポロメディカル」という。)の株式を追加取得し、完全子会社化いたしました。

当第2四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高1兆2,951億26百万円(前年同期比5.3%減)、営業利益78億58百万円(同65.7%減)、経常利益135億59百万円(同50.1%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益110億97百万円(同38.8%減)となりました。

セグメント別の業績は、以下のとおりであります。

① 医療用医薬品等卸売事業

医療用医薬品等卸売事業におきましては、2019年10月と2020年4月の二度の薬価改定および新型コロナウイルス感染拡大に伴う医療機関における患者様の外来受診抑制や手術件数の減少等の影響により市場は縮小しており、厳しい事業環境で推移いたしました。また、お得意先様を取り巻く経済状況の悪化に伴い納入価格交渉が厳しくなっていることや、価格競争が激しくなっていることも当社グループの業績に影響を及ぼしております。このようななか、当社グループでは、緊急事態宣言下においてはお得意先様への営業活動を原則自粛し、緊急事態宣言解除後においても感染予防に十分配慮しながら医薬品の安定供給を最優先に事業活動を行ってまいりました。

当社グループは、医療用医薬品NO.1卸^{*}として勝ち続けるために「19-21中計」の重点施策として掲げた「MS機能のさらなる進化」「スペシャリティ商品への注力」「グループ物流の高度化、効率化と標準化」に引き続き取り組んでおります。

「グループ物流の高度化、効率化と標準化」への取り組みとして、2020年7月、連結子会社のアルフレッサ株式会社(本社：東京都千代田区、以下「アルフレッサ」という。)は、ヤマトホールディングス株式会社(本社：東京都中央区)の連結子会社であるヤマトロジスティクス株式会社(本社：東京都中央区)と、医療用医薬品、一般用医薬品、医療機器、医療材料および診断薬等の「ヘルスケア商品」の共同配送スキームの構築に向けた業務提携契約を締結いたしました。これにより、ヘルスケア商品の配送業務効率化および配送能力増強を目指してまいります。

また、2020年9月、連結子会社の東北アルフレッサ株式会社(本社：福島県郡山市、以下「東北アルフレッサ」という。)は、南東北エリアにおける最新鋭の物流拠点として「郡山物流センター」を稼働いたしました。同センターはGDPガイドラインに準拠し、約2万7千品目の豊富な在庫を有するほか、免震構造の採用や72時間稼働の非常用発電機の設置、建物屋上のヘリポートの設置等により、大規模災害時でも安定的な医薬品供給が可能だけでなく、営業エリアを超えた緊急対応も可能となっております。東北アルフレッサでは同センターを東北地方における物流の中核拠点として活用することで、今後も地域医療に貢献してまいります。

さらに、当第2四半期連結累計期間において、アルフレッサが事業領域の拡大を視野に入れたベンチャー企業への投資として、再生医療等製品の開発および開発製造受託を行うファーマバイオ株式会社(本社：愛知県名古屋市)、日本発の遺伝子治療技術の研究開発および治療薬の開発、製造などを行う株式会社遺伝子治療研究所(本社：神奈川県川崎市)ならびにオンライン診療システムを医療機関へ提供する株式会社インテグリティ・ヘルスケア(本社：東京都中央区)へ出資いたしました。

当セグメントの当第2四半期連結累計期間の業績は、前述の二度の薬価改定、新型コロナウイルス感染拡大の影響および価格競争の激化等により、売上高1兆1,356億54百万円(前年同期比5.5%減)、営業利益59億73百万円(同70.3%減)となりました。

なお、売上高には、セグメント間の内部売上高74億94百万円(同4.0%減)を含んでおります。

※ 出典：「2020最新オール・データ&ランキング」卸グループ別医療用医薬品事業シェア(株式会社ドラッグマガジン)

② セルフメディケーション卸売事業

セルフメディケーション卸売事業におきましては、「トータルヘルスケア・マーチャンダイジング・ホールセラ」を推進し、新たな付加価値による差別化と創造性を持つオンリーワン卸を目指し、「19-21中計」の重点施策として掲げた「安定的かつ持続的な事業基盤の確立」「消費者視点に立った商品提案」「専売メーカー・専売商品の取り組み強化」「将来に向けた投資」「各事業セグメントとの連携強化」に引き続き取り組んでおります。

連結子会社のアルフレッサ ヘルスケア株式会社(本社：東京都中央区)は、2020年9月、同社の完全子会社である株式会社茂木薬品商会(本社：東京都中央区)を吸収合併することを決議いたしました。今後は両社の経営資源を有効かつ効率的に活用して、経営基盤のさらなる強化を図ってまいります。

当セグメントの当第2四半期連結累計期間の業績は、新型コロナウイルス感染拡大によるインバウンド需要の大幅な減少の一方で、感染予防関連商品の売上増加および物流を起点とした全社改革の推進によるコスト管理や利益管理の徹底等により、売上高1,341億22百万円(前年同期比3.2%減)、営業利益17億13百万円(同25.5%増)となりました。

なお、売上高には、セグメント間の内部売上高3億14百万円(同20.5%減)を含んでおります。

③ 医薬品等製造事業

医薬品等製造事業におきましては、グループシナジーの強化とさらなる規模拡大を推進するため、「19-21中計」の重点施策として掲げた「安心・安全・誠実なモノづくりの推進」「グループニーズに沿った製品の拡充」「製造受託・医薬品原薬事業の拡大」「海外事業の拡充」に引き続き取り組んでおります。

「グループニーズに沿った製品の拡充」の取り組みとしては、連結子会社のアルフレッサ ファーマ株式会社(本社：大阪市中央区)において潰瘍性大腸炎の病態把握の補助として製造販売承認を取得し、2019年10月に販売を開始したカルプロテクチンキット「ネスコート® Cp オート」が、2020年5月1日付で保険適用されました。本製品により、従来よりも大腸内視鏡検査の回数を減らし、患者様の身体的な負担だけでなく経済的な負担軽減が期待され、本保険適用を機に、医療機関での潰瘍性大腸炎の診断および治療に貢献できるよう、本製品のさらなる普及に努めてまいります。

当セグメントの当第2四半期連結累計期間の業績は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う医療機関等の外来受診抑制や手術件数の減少による自社製品の売上減少および医療機関等への営業活動の自粛等の影響により、売上高204億76百万円(前年同期比8.5%減)、営業利益73百万円(同92.1%減)となりました。

なお、売上高には、セグメント間の内部売上高39億23百万円(同25.1%減)を含んでおります。

④ 医療関連事業

医療関連事業におきましては、「19-21中計」の重点施策として掲げた「機能に応じた店舗の再編」「収益改善を目指した効率化・高度化」「多機能化による地域社会への貢献」「各事業セグメントとの連携強化」を引き続き推進する一方、前連結会計年度に発覚した調剤報酬請求に係る不適切行為の再発防止策を徹底するため、新たな管理ソフトウェアの導入および適正な人員配置等の対策を講じました。

連結子会社のアポロメディカルおよび株式会社日本アポック(本社：埼玉県川越市)ならびにアルフレッサの完全子会社で調剤薬局事業を運営する株式会社中日ファーマシー(本社：愛知県名古屋)は、2020年10月、アポロメディカルを存続会社とする吸収合併に基本合意いたしました。この3社が経営統合することで、経営資源の最適配分を行い、これまで以上にコンプライアンスへの取り組みを強化するとともに顧客視点に立った新たな価値の創造を行える調剤薬局を目指してまいります。

当セグメントの当第2四半期連結累計期間の業績は、薬価改定および新型コロナウイルス感染拡大に伴う医療機関の外来受診抑制等の影響により、売上高166億4百万円(前年同期比6.6%減)、営業損失2億94百万円(前年同期は営業利益1億90百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産の部

資産は、前連結会計年度末と比較して152億75百万円減少し、1兆3,363億43百万円となりました。

流動資産は、337億11百万円減少し、1兆7億円となりました。これは主として、「商品及び製品」が24億16百万円増加した一方で、「現金及び預金」が351億44百万円減少したことによるものです。

固定資産は、184億36百万円増加し、3,356億43百万円となりました。これは主として、物流センター等の設備投資などに伴い有形固定資産が61億16百万円増加および保有株式の時価上昇等に伴い「投資有価証券」が131億80百万円増加したことによるものです。

② 負債の部

負債は、前連結会計年度末と比較して280億67百万円減少し、8,486億53百万円となりました。

流動負債は、294億82百万円減少し、8,074億96百万円となりました。これは主として、「支払手形及び買掛金」が214億13百万円、「未払法人税等」が37億64百万円、「賞与引当金」が15億58百万円および未払金等の「その他」が26億35百万円減少したことによるものです。

固定負債は、14億15百万円増加し、411億57百万円となりました。これは主として、繰延税金負債等の「その他」が19億78百万円増加した一方で、「退職給付に係る負債」が4億42百万円減少したことによるものです。

③ 純資産の部

純資産は、前連結会計年度末と比較して127億91百万円増加し、4,876億90百万円となりました。

これは主として、「利益剰余金」が58億5百万円増加および保有株式の時価上昇等に伴い「その他有価証券評価差額金」が83億61百万円増加した一方で、アポロメディカルを完全子会社化したことにより「非支配株主持分」が9億70百万円減少および「資本剰余金」が2億98百万円減少したことによるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況

現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、352億94百万円減少(前年同期は496億26百万円の減少)し、1,739億70百万円となりました。当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況は、前第2四半期連結累計期間と比較して以下のとおりであります。

① 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、減少した資金は175億14百万円(前年同期は316億94百万円の減少)となりました。これは主として、「税金等調整前四半期純利益」161億68百万円および「減価償却費」55億24百万円の計上があった一方で、法人税等の支払および運転資本の影響等により、前年同期に比べてキャッシュ・アウト・フローは141億80百万円減少しております。

② 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、減少した資金は102億29百万円(前年同期は116億83百万円の減少)となりました。これは主として、物流センター建設等の物流設備投資および製造事業強化のための製造設備投資を中心とした有形固定資産の取得支出102億99百万円ならびに事業領域の拡大を視野に入れたベンチャー企業への出資等による投資有価証券の取得支出16億67百万円があった一方で、保有株式の縮減を目的とした投資有価証券の売却収入30億99百万円があったことによるものであり、前年同期と比べてキャッシュ・アウト・フローは14億54百万円減少しております。

③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果、減少した資金は77億29百万円(前年同期は62億41百万円の減少)となりました。これは主として、利益還元の充実を図るため、前期に比べ2億11百万円増配となる52億91百万円の剰余金の配当を実施したことおよびアポロメディカルを完全子会社化したことによる子会社株式の取得支出12億65百万円によるものであり、前年同期に比べてキャッシュ・アウト・フローは14億88百万円増加しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	210,547	175,403
受取手形及び売掛金	595,353	594,972
有価証券	10	10
商品及び製品	142,896	145,313
仕掛品	1,618	1,410
原材料及び貯蔵品	4,426	4,596
その他	80,225	79,677
貸倒引当金	△665	△683
流動資産合計	1,034,411	1,000,700
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	53,662	57,429
土地	67,178	67,126
その他（純額）	31,337	33,739
有形固定資産合計	152,178	158,295
無形固定資産		
のれん	4,103	3,790
その他	13,518	12,795
無形固定資産合計	17,621	16,585
投資その他の資産		
投資有価証券	128,559	141,739
その他	24,086	23,805
貸倒引当金	△5,238	△4,782
投資その他の資産合計	147,407	160,763
固定資産合計	317,207	335,643
資産合計	1,351,619	1,336,343

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	798,748	777,334
短期借入金	570	461
未払法人税等	10,543	6,778
賞与引当金	7,513	5,955
その他	19,602	16,967
流動負債合計	836,978	807,496
固定負債		
長期借入金	630	510
退職給付に係る負債	11,764	11,321
その他	27,347	29,325
固定負債合計	39,742	41,157
負債合計	876,720	848,653
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,454	18,454
資本剰余金	101,958	101,660
利益剰余金	317,752	323,557
自己株式	△29,368	△29,368
株主資本合計	408,797	414,303
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	66,901	75,263
繰延ヘッジ損益	△0	△0
土地再評価差額金	△3,658	△3,658
為替換算調整勘定	65	45
退職給付に係る調整累計額	1,597	1,510
その他の包括利益累計額合計	64,905	73,160
非支配株主持分	1,196	225
純資産合計	474,898	487,690
負債純資産合計	1,351,619	1,336,343

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
売上高	1,367,155	1,295,126
売上原価	1,265,061	1,210,025
売上総利益	102,094	85,101
返品調整引当金戻入額	678	634
返品調整引当金繰入額	630	521
差引売上総利益	102,143	85,214
販売費及び一般管理費	79,233	77,356
営業利益	22,909	7,858
営業外収益		
受取利息	52	34
受取配当金	1,225	1,192
受取情報料	3,110	2,986
その他	1,145	1,680
営業外収益合計	5,533	5,894
営業外費用		
支払利息	49	44
持分法による投資損失	1,037	—
不動産賃貸費用	116	99
その他	71	48
営業外費用合計	1,274	192
経常利益	27,169	13,559
特別利益		
固定資産売却益	24	44
投資有価証券売却益	386	2,684
特別利益合計	410	2,729
特別損失		
固定資産売却損	147	5
固定資産除却損	83	31
減損損失	2	66
投資有価証券評価損	32	4
その他	1	12
特別損失合計	266	120
税金等調整前四半期純利益	27,313	16,168
法人税、住民税及び事業税	7,668	6,346
法人税等調整額	1,431	△1,271
法人税等合計	9,100	5,075
四半期純利益	18,213	11,093
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	18,129	11,097
非支配株主に帰属する四半期純利益	83	△3

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3,094	8,361
繰延ヘッジ損益	0	△0
為替換算調整勘定	△21	△19
退職給付に係る調整額	△205	△86
その他の包括利益合計	△3,320	8,255
四半期包括利益	14,892	19,348
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	14,809	19,352
非支配株主に係る四半期包括利益	83	△3

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	27,313	16,168
減価償却費	5,336	5,524
減損損失	2	66
のれん償却額	445	313
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	160	△437
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△1,683	△1,535
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△238	△135
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△157	△649
受取利息及び受取配当金	△1,277	△1,227
支払利息	49	44
固定資産売却損益 (△は益)	122	△38
固定資産除却損	83	31
投資有価証券売却損益 (△は益)	△385	△2,672
投資有価証券評価損益 (△は益)	32	4
売上債権の増減額 (△は増加)	△24,550	1,046
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△10,802	△2,336
仕入債務の増減額 (△は減少)	△13,640	△21,482
その他	△2,448	△2,055
小計	△21,638	△9,371
利息及び配当金の受取額	1,280	1,228
利息の支払額	△46	△42
法人税等の支払額	△11,290	△9,328
営業活動によるキャッシュ・フロー	△31,694	△17,514

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△513	△553
定期預金の払戻による収入	402	403
有形固定資産の取得による支出	△11,263	△10,299
有形固定資産の売却による収入	347	165
無形固定資産の取得による支出	△593	△684
長期前払費用の取得による支出	△56	△783
投資有価証券の取得による支出	△731	△1,667
投資有価証券の売却による収入	488	3,099
有価証券の償還による収入	10	—
貸付けによる支出	△22	△33
貸付金の回収による収入	98	133
子会社の清算による収入	211	—
その他	△59	△9
投資活動によるキャッシュ・フロー	△11,683	△10,229
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△110	△50
長期借入金の返済による支出	△210	△179
リース債務の返済による支出	△833	△935
自己株式の取得による支出	△1	△0
自己株式の売却による収入	0	—
配当金の支払額	△5,080	△5,291
非支配株主への配当金の支払額	△6	△6
連結の範囲の変更を伴わない 子会社株式の取得による支出	—	△1,265
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6,241	△7,729
現金及び現金同等物に係る換算差額	△7	△8
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△49,626	△35,482
現金及び現金同等物の期首残高	205,085	209,264
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	187
現金及び現金同等物の四半期末残高	155,458	173,970

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

連結子会社のアルフレッサ株式会社は、独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)を発注者とする医療用医薬品の入札に関し、独占禁止法違反の疑いがあるとして、2019年11月27日に公正取引委員会による立入検査を、2020年10月13日に東京地方検察庁および同委員会による捜索を受けております。

当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります、調査は継続中であることから、現時点ではその影響額を合理的に見積ることは困難であります。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症に関する会計上の見積り

新型コロナウイルスの感染拡大は、経済や企業活動に広範な影響を与える事象であり、当社グループにおきましても、得意先である医療機関における患者様の受診抑制や手術件数の減少および営業活動の制限等、厳しい事業環境となっており当社グループの業績に一定の影響が及んでおります。

新型コロナウイルス感染症の収束時期やその影響の程度を、現時点において入手可能な情報および合理的であると判断される一定の条件に基づき、今後、2021年3月期の年間を通じて当該影響が継続するものと仮定して、固定資産の減損会計等の会計上の見積りを行っております。

なお、当該見積りに用いた仮定には不確実性があり、新型コロナウイルス感染症の収束時期および経済環境に変化が生じた場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(セグメント情報)

1. 前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注2)
	医療用 医薬品等 卸売事業	セルフメ ディケーシ ョン卸売事業	医薬品等 製造事業	医療関連 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	1,194,133	138,112	17,134	17,775	1,367,155	—	1,367,155
セグメント間の 内部売上高又は振替高	7,804	395	5,238	—	13,438	△13,438	—
計	1,201,937	138,507	22,372	17,775	1,380,594	△13,438	1,367,155
セグメント利益又は損失(△)	20,099	1,365	930	190	22,585	324	22,909

(注1) セグメント利益の調整額324百万円には、セグメント間取引消去213百万円および各報告セグメントに配分していない全社費用110百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注2) セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注2)
	医療用 医薬品等 卸売事業	セルフメ ディケーシ ョン卸売事業	医薬品等 製造事業	医療関連 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	1,128,160	133,808	16,553	16,604	1,295,126	—	1,295,126
セグメント間の 内部売上高又は振替高	7,494	314	3,923	—	11,731	△11,731	—
計	1,135,654	134,122	20,476	16,604	1,306,858	△11,731	1,295,126
セグメント利益又は損失(△)	5,973	1,713	73	△294	7,466	391	7,858

(注1) セグメント利益の調整額391百万円には、セグメント間取引消去312百万円および各報告セグメントに配分していない全社費用78百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注2) セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。